

MELONのあみめ⑤

執筆者：荒井重行さん（水部会メンバー）
「阿武隈川源流探索に参加して」

9月25日（土）～26（日）にかけて、MELON 水部会と阿武隈川流域ネットとの共催にて、阿武隈川の源流にあたる福島県西白河郡西郷村に、地元の市民団体との交流と源流の自然観察を目的として、参加者14名で行って来ました。

初日はアクティブセンター西郷で、消費者や環境に関する問題に熱心に取り組んでいる「西郷くらしの会」と情報交換を行い、その会長である大越さんから、地元川谷小と河口にある荒浜小との交流や川を汚さないための活動などの話を聞かせていただきました。

2日目はいよいよ源流探索です。沢登り用の靴とヘルメットを借り、地元山岳会の方から沢登りの心得を受け、ストレッチ体操を行ったあと出発！シロートには険しい道のりで、足をすべらせないように沢を渡ったり、深みに落ちないように岩に打ちつけられた鎖につかまったりしながら、歩くこと2時間で目標の雌滝が出現！その美しさと力強さに感動する一方、源流のひとまたぎで渡れる川幅をみると川への愛着が増して感じられました。

9月18日（土）「風力発電推進プロジェクト」メンバー5名は足利工業大学に風車の博士としてご高名な牛山泉先生を訪問し、この4月に設立された「総合研究センター」の小講堂で風力発電とエネルギー問題全般について2時間近い講義をいただき、研究施設を見学しました。

講義は、『エネルギー狩猟文明からエネルギー耕作文明へ移行しなければ地球環境がますます破壊され、近未来に大変厳しい時代が到来します。これまでの化石エネルギーの使い放題、使い捨ての時代から太陽光、風力等に代表される再生可能なエネルギーを工夫して取り出し大切に扱う時代に変換しなければならない』と非常に印象深いお話でした。

施設内見学では「都市近郊型トリプル・ハイブリッド発電システム」実証試験機として下記の3つを見学しました。

- 風力発電システム：定格出力 40 kW、
ロータ直径 15m、ハブ高さ 21m
- 太陽光発電システム：定格出力 20 kW、
発電モジュール 108 枚（190W × 108 枚）
- バイオマス発電システム：定格出力 200 kW、
木質系バイオマス（木くず、おがくず等）



雌滝まであと少し...！

今回、小雨まじりの天候でしたが、活発な情報交換と、けがもなく源流をたどることができたのは、西郷くらしの会、山岳会の方々のおかげです。また「川への思いは熱く、そして活動は明るく楽しく」がモットーという阿武隈川流域ネットの皆さま、川を大切にしたいという思いが、より強くなった2日間でした。ありがとうございました。

阿武隈川流域ネットは、阿武隈川マップの作成を発端に阿武隈川と支流の白石川流域の、こ～ぶ委員会（岩沼・亘理・船岡・柴田・白石）が中心になって、2000年に発足した川に関するネットワークです。

執筆者：岩谷金作さん
（風力発電推進プロジェクトメンバー）
「足利工業大学に風車の牛山教授を訪ねて」

バイオマス発電システムはテスト中でしたが大変興味深く、この様な複合システムを団地や自治体ごとに将来設置されると便利で災害時に助かるのではないのでしょうか。

また、施設内に併設されている20基程の小型風車群やブレードの立ち並ぶ「風と光の広場」、牛山先生のコレクションを主体に風車の手作り実機や模型、風車関連グッズ、書籍、ソーラークッカーを展示した「ミニミニ博物館」など、かねてより見学したかった研究施設でもあり大変参考になり楽しい1日でした。

余談になりますが、私は昨年に引き続き近くの小学校で工作授業の手伝いをしました。今年はセイルウィング型風車の模型を作りましたが、牛山先生の事務室で拝見した風車をヒントに500mlのアルミ缶を風車小屋に仕立て、6枚の帆羽は布のかわりに色紙を代用しましたら大変カラフルで素晴らしいできました。それで牛山先生代理の気分でも子どもたちに風車のお話も少しいたしました。